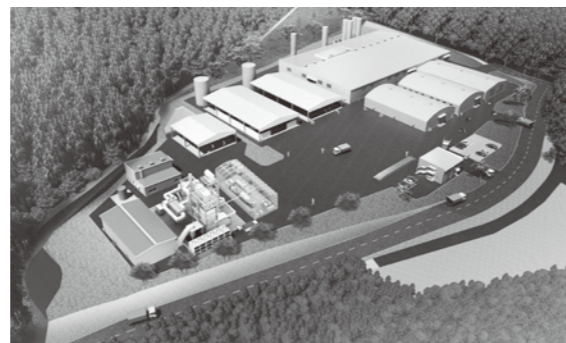


# 竹の可能性を創造する バンブーフロンティア事業

玉名郡南関町: 7月25日(水)

南関町は、熊本県の北西部に位置する山に囲まれた町で、町名は古代よりこの地に置かれた関所に由来する。南関町及びその周辺は古くから筍や竹製品の産地だった。しかし近年、高齢化と竹製品の需要減少により荒廃竹林が増え、地域の課題となっていた。熊本県においても放置竹林の問題が生じており、バイオマスエネルギーとして竹の活用が期待されているが、竹の需要拡大には繋がっていないのが現状だった。一方で竹は、成長の速さや硬さに特徴があり、抗菌効果や害虫の忌避効果をはじめ、竹の肉質が微細多孔体であることから断熱・吸音効果や脱臭効果も発揮。竹は一般的な木材は持ち合わせない、竹ならではの理学的特性を生かした健康的な住空間を創造し、理想的な建材を産み出す資源なのであった。



そこで生まれたバンブーフロンティア事業は、竹林整備、伐採・収集、竹チップなどへの一次加工を担うバンブーフロンティア(株)、竹の特性を生かした機能性ボードなど住宅用建材を製造・販売する中核企業のバンブーマテリアル(株)、そしてバイオマスエネルギー事業に取り組むバンブーエナジー(株)の3社で構成。地元南関町をはじめ、周辺市町から買取などで調達する竹を使い、特殊な圧縮技術で成型した高密度圧縮ブロック材や機能性ボードなどの住宅用建材を製造。残った幹材・枝葉など製品化できない部分をバイオマスエネルギーに使い、温水と電力を2社に供給。コスト削減で収益力を高めるなど1本の竹を100%利活用する地域循環型のビジネスモデルを構築している。

上毛町も荒廃竹林が増えてきているなか、将来的にはこのような取り組みも検討していく必要があるかもしれない。



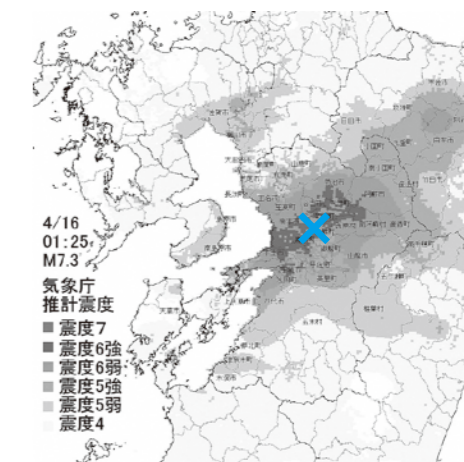
# 委員長視察研修報告 (熊本県)

宮崎 昌宗

参加議員 議長(安元)  
各常任委員会委員長(大山、三田、峯、宮崎)

## 自然災害発生時における議会の対応について

上益城郡御船町: 7月24日(火)



平成28年4月、熊本地方を震源とする大地震が発生した。御船町においても震度6弱の地震を観測し、甚大な被害を受けた。発生当時は6,000人が避難生活を行い、現在でも1,500人が避難生活を行っている。

上毛町は比較的自然災害が少なく、地震のリスクも少ないと思われているが、かつては御船町も同じだった。豪雨災害や大地震など自然災害発生時において、何が起きたのか、何ができたのか、何を備えるべきかを学んだ。

### ◎災害時に起きたこと

- ・町中がパニックになり、インターネットの不確かな情報が氾濫し、不安に拍車。
- ・全町が被災すると指定避難所が足りず、避難所自体も被災。
- ・仮設住宅をつくるのに公有地が少なかった。

### ◎議会としての動き

- ・議員が個々に動くと混乱に拍車をかけるため、組織として動いた。
- ・避難所の慰問及び被災状況の調査を行った。
- ・正確な情報を把握し、各種復興支援の制度を知っておくこと。

### ◎各家庭や行政が今後備えるべきこと

- ・各家庭で最低3日間生きられる食糧・水を備蓄すること。
- ・生活雑水の確保(飲料水は支援物資として届きやすい)
- ・仮設住宅を作る場所(民有地)を平時に協定などを結び確保しておく。
- ・地域のコミュニティを大切に。自治会や消防団や婦人会などのつながりが地域の支えになる。
- ・受援力を備える。ボランティアを受け入れる力や体制・場所がなければ、復旧・復興が遅れる。
- ・受け入れ窓口となる社会福祉協議会の訓練が必要。